

***** 《入賞・入選者の演奏風景》 *****

★重奏の部（出場21団体）

☆入賞第1位



出場番号 21
峯島・横山ファミリー
「アディオス・ノニーノ」
作曲：アストル・ピアソラ
編曲：松永勇次

☆入賞第2位



出場番号 18 Prima! 「哀愁のミュゼット」
作曲：桑山哲也

☆入賞第3位



出場番号 4 M & I 「スケーターズワルツ」
作曲：エミール・ワルトイフェル 編曲：余継清

☆入選



出場番号 14 KRUG 四重奏団 作曲：ベートーベン
「弦楽四重奏曲第7番第2楽章より」

☆入選



出場番号 12 黒猫白猫 「クロードへのタンゴ」
作曲：R・ガリアーノ 編曲：関 英昭

☆入選



出場番号 11
アコーディオン・カルパッチョ・東部
「碧空」
作曲：J・リスクナー
編曲：木下そんき

★小アンサンブルの部（出場 4 団体）

☆入賞第 1 位



出場番号 3 バンド・アミーゴ「リベル・タンゴ」 作曲：A・ピアソラ 編曲：橋本千香子

※第 2 位、第 3 位、入選はありませんでした。

★合奏の部（出場 16 団体）

☆入賞第 1 位



出場番号 13 川越アコーディオンサークルたんぽぽ「リベル・タンゴ」 作曲：A・ピアソラ 編曲：松永勇次

☆入賞第2位



出場番号 15 ウインドバスカーズ「煙が目にしみる&マック・ザ・ナイフ」
作曲：Jerome Kern / H・アイスラー 編曲：B・Olausson / 松永勇次

☆入賞第3位



出場番号 5 音楽センター東部教室「新世界交響曲より4章(10、Version)」
作曲：A・ドヴォルザーク 編曲：木下そんき

☆ 入選



出場順番 16 実行委員会有志「合奏協奏曲作品6第3楽章より」 作曲：ヘンデル

☆特別演奏 松村有子氏



前回独奏一般の部第1位の演奏

☆ゲスト演奏



田ノ岡三郎（アコーディオン） & 伊澤陽一（スチールパン）

★打ち上げの様子



ヴァイオリンを弾く池田敏美特別審査員 ↑ 自己紹介を兼ねて演奏するゲスト演奏者、田ノ岡三郎氏

《池田敏美氏（ヴァイオリニスト）より手記を頂きましたので紹介します》

アコーディオン演奏交流会の皆さん、9月のコンクールでアコーディオンを楽しんでいらっしゃる人口の多いのにまず驚きました。これは、松永さん木下さんを始めとする根気強いご努力がこの広がりを作ってきたのだと思いますが、演奏していらっしゃる皆さんの純粋な熱意も大きな支えであったろうと思いました。私の心境を綴った文章をお送りいたします。

♪歩んできた道程と音楽

バカがつくほどまじめ一方で、世間知らずの十八歳の娘が、知り合いの一人もいない東京に出てきたのは四十七年前、音楽大学に入学してもひたすら練習に明け暮れ、同級生から「君は誰のために演奏するのか」と問われても、強気に反対していた父にゴリ押しで上京したいきさつから「父のため」はたまた「自分のため（自己満足?）」などという答えしか浮かばない程、

当時の私は音楽の役割について考えたこともない、社会音痴でした。

1969年（二十六歳の時）三十余名の若い音楽家たちと、新星日本交響楽団を創立、「全身全霊を投入して、すぐれた音楽創造をしたい。聴く人々に喜びと、「明日」を与える音楽でありたい。そのことが即、生活でもありたい。」聴き手一人ひとりがオーケストラの大切なスポンサーであると、かつてどのオーケストラも持たなかった聴衆と至近距離で向き合い、交流しあうポリシーを掲げたのでした。一歩一歩の歩みの中で、不器用ながらも知らない人と話し、演奏会実現のために多くの人々の力を借り、知恵を出し合って形にしていくのは、やがて、自信となり、喜びとなって、人の輪(人の和)を大きく広げてくれました。(次号に続く)



